

震災からの復興活動に取り組むリーダーを、  
短期・中期・長期の3つのフェーズで支援します

# 震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

経過報告レポート (2011.11.11-12.11)

## 1 右腕インタビュー



「自分の役割は、事業をやろうとしていく人を支えること」

—今のお仕事は、どんなことをしていますか？

宮城県牡鹿半島東浜地区・牧浜を中心に、漁網を使ったミサンガや鹿の角を用いたアクセサリ・OCICAの制作を通じて、被災された女性たちの仕事づくりとコミュニティづくりを仕事にしています。具体的には、女性たちとプロダクトデザイナーの双方が「作ることができる・作りたい」と思える製品デザインをすり合わせ、制作のためのワークショップを実施、安定的な生産体制の構築や材料の調達、また販売チャネルの開拓をおこなっています。漁網のミサンガに関しては今後、女性たちが集まって作業できる加工場を兼ねた集会場をつくらうとしていて、そのための企画や、建築を進めていく上での論点の洗い出しや設計も最近の仕事です。あとは、支援したいと言って下さる方など外部ステークホルダーとの調整や、予算管理を担当しています。

—最初に、石巻を訪れたきっかけは？

地震後すぐは仕事が忙しく、すぐに東北には行けませんでした。担当していたプロジェクトが一段落した7月、大学時代の先輩だったうちのリーダー(友廣)に連絡して初めて石巻に行ったのが7月19日。一人で千葉から車を運転して、まともに会って話すのは3年ぶりでした。

—一週間滞在したあと、帰りの車の中で上司に退職のメールを書いた。

もともと、誰かの後方支援をするのが好きなんですよね。事業をどうつくっていくかを考えるのが好きで、石巻に行ってみて、友廣に紹介された漁師さんや地元企業の社員さんたちの仕事ぶりを見て、素直に良いと思えたんです。一緒に事業をつくっていきたいのは、こういう人たちだよな、という人が、いきなり現れちゃった。彼らの話を聞いていると、自分の仕事や商品に本当に誇りを持っているな、というのが伝わってくるんです。漁師さんたちの力強さや集中力もすごい。会社と交渉して休職することになり、9月から参画しています。

—リーダーである友廣さんとの役割分担を教えてください。

友廣が、おもしろいネタやテーマ、人と出会って「こんなことでできそうやん」と言うのを聞いて、やるならこういうことが必要で何がネックかを整理するのが、僕の役割。整理するっていったらおこがましいですけど、二人でディスカッションするための材料を提供する。大学時代にサークルで友廣と一緒にやっていたことも、コンサルタントとしてやっていた仕事も、僕の機能としては変わっていない気がします。今の立場で静かに淡々と、でもきちんとアウトプットを出したい。今はそう思っています。

—最近感じていることや、今後について聞かせてください。

一緒に活動する女性たちが前向きになっていく姿勢や、企画した製品が売れていくことが嬉しい。3年くらいは関わり続けたいと思っています。先のことはわからないですけど、なんともなるんじゃないかな、と。関わる地域のコミュニティを大事にしなが、持続可能な仕組みを創っていきたくです。

右腕:多田知弥(25歳)

「石巻沿岸地域の未利用資源を活用した  
産業復興支援プロジェクト」

経営コンサルティング会社に2年間、営業戦略の立案・業務改革、新規事業の立上げ支援などに従事。”モノをどうやって売っていくか”というテーマで仕事してきた経験を活かし、地域の素材を活かしたアクセサリ制作による被災者の仕事づくりをおこなっている。プロジェクトリーダーの友廣氏は、大学時代の先輩にあたる。

## 派遣を開始して6か月、右腕参画で推進されたものは

右腕派遣を本格始動した6月から半年が経過。各地のプロジェクトにおいて、被災した地元住民らへのエンパワーメントを通じた自立的復興支援への貢献、コミュニティ形成、事務局機能の強化、地域産品の開発や販売促進など、様々な成果が生まれ始めました。今回は、右腕参画によって具体的に何が推進されているか、現地の様子をお伝えしていきます。

### ■ 地域住民のエンパワーメントと事業化 (牡鹿・雄勝)

雄勝・牡鹿など、石巻市の沿岸地を中心としたエリアにおいて、地域の未利用資源を活用したプロダクトの企画・販売を行っている「石巻沿岸地域の未利用資源を活用した産業復興支援プロジェクト」。鹿の角や鹿肉、割れた玄昌石などを、外部のデザイナーと地域住民の協業による新商品開発をサポートし、販路開拓までを一貫して支援してきたこのプロジェクトが、ようやく形になりました。このプロジェクトに参画しているのは、巻頭のインタビューでも紹介させていただいた多田知弥氏と鈴木悠平氏、短期プロジェクトスタッフの齋藤睦美氏です。

#### 一 地域のお母さん方のエンパワーメント

右腕の1人である鈴木氏は、このプロジェクトにおいて重要となる、鹿角アクセサリーの作業場となる漁村を見つけ、こまめに漁村を訪問し、関係性を構築しました。また、木の屋石巻水産など、現地でボランティアが必要な際に、東京からのボランティアコーディネートをを行い、マンパワー増員に貢献してきました。右腕を対象に行ったアンケートでは「お母さん方が目に見えて元気になってきたことや、木の屋缶詰が復活をとげたことが嬉しい」と、述べています。

一 牡鹿の特産品を利用した商品開発、アクセサリーの販売開始  
今月は、OCICAアクセサリーの量産体制を整え、ソトオンラインショップでの本格販売も開始。また、牡鹿半島鮎川浜でのコミュニティスペース「OSHIKA HOUSE(仮)」建築のための助成金の支給も決定、漁村体験型ツアー「ニイヤマ大学」実施に向けた動きなど複数のプロジェクトを進めているそうです。

一 プロジェクトの事業化、サステイナブルな仕組みづくりへ  
今後については、「しっかりとお金を自分たちで回していく仕組みを作っていきたい。」と多田氏、「リクルーティングやチームビルディングを行い、自分の右腕としての参画が終わった後もプロジェクトが続く仕組みをつくりたい」と鈴木氏は話しています。2人の右腕の参画により、ボランティア団体から事業者へ、サステイナブルな組織づくりが推進されています。



### ■ 地域を巻き込んだ産品づくり

#### (南三陸)

南三陸町の廃校を工房にリノベーションし、志津川のタコを復興のシンボルにしたオクトパス君の置物を皮切りに地域の特産品を作り、様々な町の雇用を作り出そうとしている「南三陸復興アトリエプロジェクト」。このプロジェクトに参画しているのは、大手旅行会社を経て、フェアトレード専門ブランドで経験をつんできた村井香月氏です。

#### 一 アイデアから実践へ、体制を確立

村井氏の参画により、地元のリーダーが考えてきたアイデアを実践できる体制が整いました。また、新規スタッフの面接等もを行い、次期幹部候補の育成やマネジメント業務も手掛けています。

#### 一 地域産品パッケージ作成、地域のエンパワーメント

今月から、プロジェクトで扱っている「タコの会」のグッズのみでなく、町内の他社製品の取り扱いを開始。町外の人へ向けて、南三陸町の復興アピールを進めています。メディアの取材対応を行うことによって、観光者も増加。地元の方々も、「外から来た人がこんなにやっているんだから自分たちも頑張らなくては」と村井氏から刺激を受けているようです。

## ■リーダーが動きやすい組織整備（亘理）

3.11後、多くのボランティアが訪れた亘理町。最初は旅館での宿泊プロジェクトを行い、現在はCSRコンサルティング会社と連携して、企業向けの社員研修を兼ねたボランティアツアーを実施している「ふらっとーほくプロジェクト」。3万人を超えるボランティア経験者と地域住民発でスタートするプロジェクトとをつなげていく新しい事業にも取り組んでいます。このプロジェクトに参画しているのが、リーダーの友人でもあった村上好幸氏です。

### ーリーダーが動きやすい体制づくり

右腕として村上氏が参画し現場の業務やオペレーションを担うことによって、リーダーは外部との関係性構築や資金調達に動けるようになりました。リーダーが動きやすい体制を整えた結果、防潮林を地元園芸農家や町の子供たちと再生する取り組みや、地元主婦たちによるアクセサリ製造・販売など複数のプロジェクトが進んでいます。



## ■地域コミュニティづくり（石巻①）

津波で自家用車を失った被災者や交通手段を持たない仮設住宅の高齢者などを対象として、コミュニティバスを運行しようとしている「コミュニティバス運行プロジェクト」。現地の方へのアセスメントを通して気づいた、つながりづくりのニーズに対応し、仮設住宅でのイベント等も行っています。このプロジェクトには、渡邊恭成氏と佐々木里奈氏の2名が、右腕として参画しています。

### ー地元の方々がつながるきっかけづくり

右腕として2人が参画することにより、地元の方との関係構築が時間をかけて行えるようになり、コミュニティ形成が促進されています。「仮設のお父さん・お母さんたちの笑顔の輪と一緒に笑うことができた。住民の方々の笑顔が増えたことが嬉しい」と右腕の渡邊氏は述べています。

## ■新部門開始と、事務局機能の確立（石巻②）

地域の看護師・介護士とともに、医療・看護・介護・生活の困りごとを解決を進めていく「地域看護・地域福祉 後方支援プロジェクト」。このプロジェクトには、右腕として、塚田祐子氏と野津裕二郎氏の2人が参画しています。

### ーリハビリテーション部門の開始

医療職の経験がある野津氏の参画により、もともとナース補助がメインだったプロジェクトに、リハビリテーション部門ができました。地域の事業所ではなかなか手が回らない、リハビリテーションのニーズ調査などを進めています。

### ー事務局機能の強化

また、塚田氏の参画により、事務局機能が出来上がり、報告や広報・記録を行うようになりました。地域医療セミナーの開催やお茶っこのみ相談会にも携わっています。



## ■海外からの資金調達と、運営改善（女川・大槌）

地域の学習塾の先生方・有志の方々・ボランティアの方々・教育委員会・校長会・学校・そして遠くから応援する寄付者の方々などが、放課後の学校を舞台にしてみんなで協力し、被災地の子供たちの学ぶ『場』をつくらせている「コラボ・スクール」。現在、右腕として高山リサ氏と川井綾氏の2名が参画しています。

### ー海外からの資金調達に成功

マニラで13年間、NGO等に携わってきた高山氏が、資金調達担当・海外発信担当として参画。欧米の財団からの資金調達に成功し、大槌町での二校目の放課後学校立ち上げにも弾みをつけました。（※高山氏は、女川ではなく東京で業務を行っています）

### ー運営体制の改善

川井氏は、スタッフの業務負荷を減らすため、運営改善に取り組み、ボランティア管理や寄付者管理のシステムを女川向学館に導入。大槌での運営体制確立にも取り組んでいます。

## 3 今月のトピックス(2011.11.11-12.11)

各種メディアでも、派遣者が取り上げられるなど、軌道に乗りはじめた右腕派遣事業。派遣者のレベルアップと、人材を通じたプロジェクトの深化を目指して、右腕派遣者を対象にトレーニングを開始致しました。同時に、派遣者同士がつながり知恵を分かち合う、自然発生的なコミュニティが生まれ始めました。多くの団体が東北から撤退の段取りを進めるなか、ETICは右腕派遣をはじめとした事業を通じて、現地主導で尊厳ある東北を実現していきます。



### ■ 右腕研修合宿(11月20日、21日)

#### 一人が集まり、智慧を交わす

秋の深まる11月の仙台。東北の中心地の少しはずれ、秋保の木の家というコテージにて、右腕派遣者の研修合宿を開催致しました。ETICスタッフのみならず、実際に現場で取り組む方々も企画段階から参画し、「知恵を共有するためにはどうしたらよいか」、「繋がりが続く仕組みを作るにはどうしたらよいか」を考え、暖かな場が生まれました。

当日参加した右腕は北は大船渡、南は巨理町まで、28名。仮設住宅支援から産業創造の現場まで、多様な分野に挑む方々が集い、智慧を交わし、想いを分かち合いました。

【自分を表すものを近くから拾ってきてください】という笑顔こぼれるアイスブレイクを皮切りに、夜が更けるにつれて、「事業をどうすべきか」、「課題は何か」、「なぜ右腕として参画したのか」と、対話の質は深くなり、新たな知見の共有の場が生まれました。

#### 一コミュニティがもたらす事業の深化

派遣した右腕がつくるプラットフォームは、課題解決型コミュニティとも言えるものです。プロジェクトごとに抱える課題は多様に見えますが、「どうすれば地域の方々を巻き込んでいけるのか」、「事業の後継者をどうやって見つけるのか」、「事業を仕組み化するためにはどうしたらよいか」など多くの共通点があり、派遣者同士が智慧を出し合うことで、事業を推進する力となっていきます。研修合宿は定期的を実施していく予定ですが、そこで生まれた繋がりを絶やさぬようFacebookのコミュニティを立ち上げました。そこでは、「地域にどんな資源があるか」、「近くの地域で分科会を開けないか」など、活発に議論と対話が重ねられ、距離を超えたコミュニティが生まれつつあります。

### ■ 震災勉強会(11月22日)

#### 一被災後、激動の気仙沼

被災した人とNPOをつなぐ、「つなプロ」の気仙沼代表として、被災後、気仙沼にて緊急支援に取り組まれていた川崎克廣氏をお招きし、渋谷ETIC.オフィスにて震災勉強会を開催致しました。川崎氏は、米軍の次に気仙沼大島に入り、現在に渡るまで継続的に気仙沼に関わっています。ガソリンもなく、交通網が寸断され、アクセスが困難だった気仙沼において、緊急支援を実施していった経緯を伺いました。特に大島全域を対象とした全島アセスメントにより、支援が必要なマイノリティの方々を発見し、必要な支援を繋いだ取り組みに、参加者一同息を飲みました。また、今後の地域づくりについても意見を交わす、主体的で活発な場となりました。

### ■ 南三陸ネットワークミーティング(11月29日)

#### 一被災地の声を聴き、これからの支援を考える

南三陸の復興に関わる人たちが集い、これまでの取り組みと、現時点の課題を共有し、これからの支援の在り方を考える、ネットワークミーティングを開催致しました。ITを用いて支援の在り方を考える方や、仮設住宅や個人宅で暮らす方への情報伝達の仕組みを考える方など、様々な方が集まって言葉を交わすなかで、人が地域から出て行ってしまう、雇用で適切なマッチングができていなかったりと、実情が明らかになっていきました。行政のみにすべてを任せるのではなく、NPOや中間支援組織など、多くの団体が連携して支援に取り組んでいくことが必要との、意見が上がり、プロジェクトと、様々なリソースのマッチングが起こりました。

### ■ 気仙沼合同研修(11月30日)

#### 一派遣前トレーニング始動 ～点から面の動きを生む右腕派遣へ～

右腕研修合宿からおおよそ1週間後、まだ建築規制がかかり、瓦礫の残る気仙沼で、最近右腕として加入した4名を対象に合同研修を実施致しました。震災を直接体験したわけではない、新しく外部から入る方々に対して、この気仙沼という土地が被災後どのようであったか、リーダーの右腕として活動するということがどのようなことなのか、震災勉強会でもご協力いただいた川崎氏を招いて、今後を考える時間を設けました。「右腕」という意味について考え、整理する機会となったとの言葉をいただいた気仙沼での合同研修。気仙沼を「研修センター」と位置付け、地方各地に散らばる点の動きを面に変えていくために、今後も新規で参画する右腕を中心に、合同研修の時間をつくっていきたいと考えています。

## 活動 エリアマップ

※ 1 番号は、右側の参加プロジェクトです。



- 1 「東の食の会」プロジェクト
- 2 キッズドア「タダゼミ&ガチゼミ」
- 3 ふらっとーほく プロジェクト
- 4 地域創造基金みやぎ
- 5 復興支援リサーチプロジェクト
- 6 コミュニティ・ワーク創出事業プロジェクト
- 7 仮設住宅・第二のふるさと創出プロジェクト
- 8 放課後学校 コラボ・スクールプロジェクト
- 9 つなプロ気仙沼
- 10 気仙沼・情報発信力アッププロジェクト
- 11 仮設住宅で生活する子どもたちの教育支援プロジェクト
- 12 東北 Roku プロジェクト
- 13 コミュニティバス運行プロジェクト(ぐるぐる応援団)
- 14 地域の未利用資源活用とコミュニティ再生プロジェクト (つむぎや)
- 15 なつかしい未来商店街プロジェクト
- 16 地域看護・地域福祉 後方支援プロジェクト
- 17 大船渡仮設住宅支援員配置プロジェクト
- 18 復興応援団
- 19 みやぎ連携復興センター
- 20 南三陸復興アトリエプロジェクト

12月11日現在、右腕へのエントリー者数は115名、そのうち53名を右腕として現地へ派遣しました(緊急支援フェーズ15名、リーダー支援フェーズ38名)。現在の派遣プロジェクト数は24。産業復興、医療・福祉、教育、コミュニティ支援、中間支援と、多岐にわたるテーマを持つプロジェクトへ、人材を派遣しています。また、2週間～1か月の期間、プロジェクトの推進にコミットする「短期プロジェクトスタッフ」は25名となりました。

## 5 ご支援・ご寄付のお願い

本プロジェクトについては、スタート以来、国内外の個人・団体・企業の皆様より大きな関心を頂戴し、現在のご寄付の総額144,576,915円のほか、民間企業や国内外の財団から引き続き支援に関する照会をいただいております。

しかしながら、右腕人材の派遣をはじめとして、現地で復興の取り組む人々からの支援のニーズは予想以上に高く、右腕派遣の目標を「50件のプロジェクトに200名」と当初の倍に設定しなおしたのをはじめ、各プロジェクトへのハンズオン支援の充実、新たなプロジェクトのインキュベーションやスタートアップ支援など、震災復興リーダー支援プロジェクトの全体像の再構築に取り組んでいるところです。

目標の変更に伴い、総予算額も3年間で6億円以上の規模となる予定で、改めてファンドレイジング戦略の強化を実施してまいります。

皆様におかれましては、「震災復興リーダー支援基金」のPRへのお力添えをはじめとして、事業連携や各プロジェクトへの個別のご協力など賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

信頼資本財団「震災復興リーダー基金」  
 >> <http://www.shinrai.or.jp/fukkou-shien/etic/>

### 連絡先・お問い合わせ先

◆NPO法人ETIC.内  
 震災復興リーダー支援プロジェクト 事務局  
 (担当:山内・辰巳)  
 東京都渋谷区神南1-5-7  
 APPLE OHMIビル4階  
 mail: [fukkou@etic.or.jp](mailto:fukkou@etic.or.jp)  
 Web:  
<http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>